

認め合える関係づくり

友達同士のかかわり合い

～一人一人のよさや特性を見付ける～

ポイント1

現代社会においては、大人社会に限らず、子どもたちの人間関係にも希薄さが感じられます。「友達」という関係も限られた範囲であったり、決まったグループの中でしか活動できなかったりしがちです。一見平穏な人間関係が築かれているようでも、その中から少しでも外れたとたんに不安を感じたり、違うグループとかかわることができなったりすることがあります。そこで、教師が意図的にグループや集団を設定することにより、互いに成果を喜び合い、達成感を分かち合う経験を重ねさせたり、時にはあえて葛藤を生じさせ、それらの活動の中で一人一人のよさや特性を見付け、認め合えたりするように促すことが大切です。



●かかわり合う場を作る●

誰とでも、どんなときでも協調して協力し合える力を育てるには、日常的な当番活動や係活動などの協同の活動の充実を図ったり、多様な集団に所属したりすることが大切です。目的を持って生活グループを作り、男女の別なくかかわり合ったり、グループの中で声をかけ合ったりすることができるようにします。その取組の過程で、何か矛盾が起こったり、もめ事が起こったりしたときこそ、その解決の仕方を学び合わせるチャンスです。学級の中で起きた問題は、第三者的な立場ではなく、自分または自分たちの問題として考えさせることが大切です。そのために、普段から一人一人の思いを引き出し、交流させ、さらに学級としての方向性を考えさせることを大切にしたいものです。

●互いを認め合う場を作る●

一人一人が学級全体のことを考えられるようにするためには、日頃から互いを認め合える場の設定が大切です。そのために、スピーチや話し合い、「よいところ見付け」、学級通信などを通じて、思いを伝え合えるような取組をします。また、学校行事等の様々な取組の後には努力した姿を認め合わせましょう。

集団の中での「自分」

～メタ認知能力を高める～

ポイント2



生きる力をはぐくむためには、集団の中での自分を意識しながら、自分自身の成長や課題が理解できるよう、メタ認知能力を高めることが必要です。学校行事はメタ認知能力を高める絶好の機会です。メタ認知能力が高まると、自分自身が次にどのようにすればよいかを考える力につながるからです。

●目標と一人一人の責任について周知徹底する●

例えば、学校行事に取り組むときに学級や個人の目標を作り、その目標達成のために、一人一人がすべきことや果たすべき責任について具体的に考えさせます。責任の重さを十分に理解させることが大切です。

※ メタ認知能力

自分自身がどんな力を持っているのか、何が得意で何が苦手なのか、自分を客観的に見る力です。

●振り返りをきちんとする●

学校行事や学級の取組の後には、目標や役割について振り返りをします。ただ「楽しかった」で終結するのではなく、「何をがんばったか」「何が不十分だったか」「次にがんばることは何か」「まだまだやれることは何か」をしっかりと考えさせ、子どもたちで評価し合う機会を設けます。このことを通して、自分自身のメタ認知能力をさらに高めていきます。